

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	現代人のこころ						授業形態	講義	
科目コード	750014	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	神垣 彬子								
授業概要	<p>心理学の観点からみた、子どもや子どもを取り巻く社会全体の実態の理解を目的とする。 問題発生の察知・把握、教師として行うべき援助、保護者への支援と協力関係、外部専門家の活用と協働、カウンセリングの手法について具体的なケースを考えながら学ぶ。</p>								
関連する科目	教育心理学、発達心理学、発達心理学1および2、臨床心理学								
授業の進め方 と方法	講義は、パワーポイントや講義内容に沿った視聴覚教材を用いて行う場合がある。講義内容によっては、ディスカッションやロールプレイを用いて学びを深める場合がある。								
授業計画 【第1回】	第1回：心理学を学ぶための心構え 心理学は社会科学の一つであり、科学的視点を持って臨むことが求められる学問である、ということについて学ぶ。								
授業計画 【第2回】	第2回：心理学とはなにか①：心理学の歴史 心理学の歴史と変遷を学ぶことで学問の性質を知り、人の心を分析することに対する意識のあり方を理解する。								
授業計画 【第3回】	第3回：心理学とはなにか②：人間の心の「分析」 心理学の歴史と変遷を学ぶことで学問の性質を知り、人の心を分析することに対する意識のあり方を理解する。								
授業計画 【第4回】	第4回：人間の感覚と心理学①：物事の認識 人間の心が人間の感覚に影響していることを、心理学の理論を通して学ぶ。								
授業計画 【第5回】	第5回：人間の感覚と心理学②：記憶と忘却 人間の心が人間の感覚に影響していることを、心理学の理論を通して学ぶ。								
授業計画 【第6回】	第6回：人間の感覚と心理学③：知覚と感覚 人間の心が人間の感覚に影響していることを、心理学の理論を通して学ぶ。								
授業計画 【第7回】	第7回：人間の成長と心理学①：乳幼児期の発達 心理学の視点から人間の成長を捉え、各発達段階における人の心の動きの特徴や課題を理解する。								
授業計画 【第8回】	第8回：人間の成長と心理学②：児童期の発達 心理学の視点から人間の成長を捉え、各発達段階における人の心の動きの特徴や課題を理解する。								
授業計画 【第9回】	第9回：人間の成長と心理学③：青年期の発達 心理学の視点から人間の成長を捉え、各発達段階における人の心の動きの特徴や課題を理解する。								
授業計画 【第10回】	第10回：人間の成長と心理学④：成人期・高齢期の発達 心理学の視点から人間の成長を捉え、各発達段階における人の心の動きの特徴や課題を理解する。								
授業計画 【第11回】	第11回：性格や感情と心理学①：性格とはなにか 心理学の理論を通して、人間の性格や感情を科学的に捉える視点を身に付ける。								

授業計画 【第12回】	第12回：性格や感情と心理学②：感情とはなにか 心理学の理論を通して、人間の性格や感情を科学的に捉える視点を身に付ける。
授業計画 【第13回】	第13回：社会・人間関係と心理学①：集団心理と人間関係 社会における人との関係の中で、心理学の理論や技術をいかに活用し、豊かな生活を送るかについて学ぶ。
授業計画 【第14回】	第14回：社会・人間関係と心理学②：社会における心理学 社会における人との関係の中で、心理学の理論や技術をいかに活用し、豊かな生活を送るかについて学ぶ。
授業計画 【第15回】	第15回：社会・人間関係と心理学③：教室における心理学 社会における人との関係の中で、心理学の理論や技術をいかに活用し、豊かな生活を送るかについて学ぶ。
授業の到達目標	現代社会では多様な価値観や生活様式が認められており、体系的に心理を学ぶ必要がある。将来携わるであろう、対人スキルや客観的視点が重視される医療・福祉・食品開発の分野で役立つ心理学の知識を習得することを目的とする。【職業知識・技能の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)
授業時間外の学修 【予習】	授業の前後にノートの予習を必ず行い、前後の講義内容との関連性等に着目しながら学びを深める。 次回の講義の予習箇所については、講義終了前に毎回提示する。
授業時間外の学修 【復習】	授業の前後にノートの復習を必ず行い、前後の講義内容との関連性等に着目しながら学びを深める。 当日の講義の復習箇所については、講義終了前に毎回提示する。
課題に対する フィードバック	最終試験の採点基準および回答のポイントについては、授業内容の振り返りとともに最終講義内で事前に解説する。
評価方法・基準	定期試験（基礎用語の理解と指定評価方法テーマに対する論述問題）100点の結果で評価する。
テキスト	心理学 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 編 東京大学出版会 1996
参考書	適宜紹介する。
備考	